

令和6年度 第1回沼津市立図書館協議会 議事録

日 時 令和6年8月7日(水) 午後2時00分 から 午後3時40分まで

場 所 沼津市立図書館4階 第1・2講座室

出席者 委 員 6名

村上市長、小島副会長、露木委員、佐野委員、工藤委員、本間委員
(欠席：渡辺(洋)委員、高村委員、渡邊(美)委員)

事務局 5名

岩瀬館長、中澤事務長、宇佐美事務長補佐、榊図書係長、渡辺管理・事業係長

傍聴者 なし

1 開会

2 辞令交付

3 教育長挨拶

皆さんこんにちは。紹介いただきました沼津市教育長の奥村篤です。

この度は、沼津市立図書館協議会委員にご就任をいただきまして誠にありがとうございます。任期は今申し上げた通り、令和8年の7月までになります。どうぞよろしくお願いいたします。

また、梅雨明けから体温を超えるような猛暑が毎日のように続いています。今日もこの時間は一日のうちで一番暑くなる時です。ぜひ会議中はこまめに水分補給をされながら健康第一でやっていただきたいと思います。

さて、周知のとおり、昨年、沼津市制施行100周年の年でありました。併せまして、平成5年の7月に開館をしました沼津市立図書館が30周年という節目の年でもありました。そのことから記念の企画展として「本でたどる沼津の100年」を4階の展示ホールで、また本館2階では、「沼津の学校と教科書の歩み」展を開催し、好評を博したところでございます。

今年度は「源氏物語を題材とした文芸講座」「こども読書週間記念のイベント」開催、また最近では展示ホールにおきまして、「絵本でつくるわくわく動物園」を行うなど、大勢の方に参加をいただいたところです。

また夏休みイベントとして、本日も10時からですけれども、今日明日明後日と3日間、視聴覚ホールにおいて子供向けの映画の上映会を行っているところであります。

本市の図書館の利用状況でございますけれども、入館者数はコロナ禍前と比べると減少傾向にあります。また市内各地区センター図書室の利用者は増加傾向にあります。この辺も含めて、この後事務局から詳細な説明があるかと思っております。

一方コロナ禍での図書館のあり方として、令和3年1月に本館に来館しなくても本が利用できるという「ぬまづ電子図書館」を開館し、現在、利用拡大に向けて、小学生への利用者カードの一括申請受付などを行っているところです。

今後は、学校の図書館と本館との連携をどのように進めていくかということも検討してまいりたいなというふうに思っております。

昨年3月に第5次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画が閣議決定されました。これは子どもの読書活動の推進に関する法律に基づいて政府が概ね5年ごとに策定をします読書活動の推進を図る基本方針であります。その中で示されている項目の一つに不読率、本を読まない率の低減というものがあります。

全国学校図書館協議会の学校読書調査によりますと、2023年に1ヶ月間、本を1冊も読まない生徒の割合が中学生で13.1%、高校生では43.5%でありました。

これは前年に比べて中学生が5.5%ほど、高校生は7.6%ほどの改善が見られたのですが、そのこと自体は大変喜ばしいですが、まだまだ読書環境の整備を進めなければいけない、これは本市を含めて全国的に言えることであります。

特に高校生の不読率の低減につきましては、乳幼児期から中学生まで切れ目のない読書習慣を形成する、あるいは探究的な学習活動で学校図書館等を利活用するなど、主体的に読書に興味関心を持つ取り組みの推進を図ることが重要になってきます。

本市におきましても、中学生高校生に限らず、小学生も含めた多くの子供たちに読書の機会を確保する環境整備が必要だと思っています。読書への関心を高めるきっかけとしては、先ほども申しましたように、乳幼児のこの時期から読み聞かせの推進、身近な大人が読書する姿や本に接している姿を見せるということも一つの方法として考えられるかなと思います。

子供は大人の言動をよく見えています。身近な読書推進活動の一つとして、私達も含めて、大人が意識して取り組むこと、これを期待したいと思います。

また若者など読書離れが進んでいると指摘される一方で、デジタルメディアの利用時間が増加しているとも言われています。

教育現場でも、紙とデジタルの二つの読書ツールが広がっています。どちらがという選択ではなく、それぞれの良さを生かした必要な場面、必要なタイミングで使い分けていくことで、子供たちにとって深い学びに繋がっていくのだなと考えております。

本になじみが薄い子供たちへの読書の入口、あるいは紙の本が読めない環境での利用などには、デジタルの持つ良さを生かすことができます。一方、実物の本は手に取って、その装丁とかレイアウトとか、あるいは書体デザインから作り手の意図を感じ取ることができますし、読書を体験として色濃く心に残すこともできるのかなと思います。

昨今の生活様式は、速い、簡単、便利といった傾向にならざるを得ません。そのこと自体は必ずしも悪いことではありませんけれども、読書につきましては、その傾向とかけ離れているように思います。1冊の本を読むには時間がかかります。考えることもたくさん出てきます。ときに読み進めることが止まってしまうこともあります。

でも、自分自身と向き合う時間、ゆったりと時間をかけて物事に対する時間、これは今の時代

だからこそ必要ではないか、とても貴重だと思います。

そして必ずこれから生きていく力に繋がる、そんな時間になるのかなと信じています。

現在、市民のライフスタイルや価値観が時代とともに多様化し、図書館を取り巻く環境も日々刻々と変化しています。これに伴いまして、図書館の魅力を高める運営の見直しが求められます。

今後も地区センター図書室や電子図書館などの利用を促進すること、子供から大人まで、本館から遠い地区にお住まいの方々にも、いつでもどこでも本に触れることができる環境作りをより一層進めていければと思います。そして、より質の高い市民サービスの提供と、あらゆる世代が利用したくなる生涯学習の拠点施設として、魅力的な図書館作り、これに尽力してまいりたいと思いますので、委員の皆様方には、この協議会を通じまして、忌憚のないご意見、ご助言をいただければと思います。

結びになります。今期も活発なご議論をお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

4 委員及び図書館職員自己紹介

委員及び事務局職員が各自自己紹介を行った。

5 会長、副会長選出

図書館協議会条例第3条の規定に基づき、委員の互選によって村上委員が会長に選出され、小島委員が副会長に選出された。

6 会長、副会長挨拶

村上会長、小島副会長から挨拶

7 議事（進行は村上会長）

（1）令和5年度利用状況及び自主事業について

事務局から配付資料に基づき説明

委員： 入館者数がコロナとデジタル化の影響で減っていて、貸出利用者数は特に自動車文庫と戸田がかなり大きく減っているという説明でした。その理由として、自動車文庫の場合にはコロナの影響はあまり考えられないのかなと思って、デジタル化の影響があるのかと思うのですがどうでしょうか。あと、戸田は人口の割合にしても登録者数が12人と非常に少ない。何か原因があるのか教えていただきたい。

事務局： 戸田につきましては、主に小学生の利用が結構多かったのですが、戸田小中学校が一貫校になり、学校の図書館を利用するようになったため、小学生の利用が大分減ってしまったと聞いております。

自動車文庫については、1ヶ月間バスが運行できなかった時期がありまして、その分前年度より減っております。

- 委員： (14)の講座室等利用状況で戸田視聴覚室が、令和4年度は1なのに5年度は47と絶対数はともかく、率としては非常に大幅に増えていますが、これはどんな原因でしょうか。
- 事務局： 1ヶ月間ほど視聴覚室を使って展示を行っておりまして、1日使用すると午前午後夜と3件となりますので、47件という数になっております。
- 委員： そうするとそういった展示は今まで行われてなかったけれども、ここだけ新しく？
- 事務局： 芹沢光治良記念館の展示をここで行いました。
- 委員： そうすると来年以降も引き継げるという訳ではないということですね。
13ページの夏休み図書館こども探検隊、これは非常にいい事業だと思うのですが、今特に若い人の図書館利用が減っているわけですよ。そういった原因を探る意味でも、この子供さんはこの時にどんな事を言っていたかというのが参考になる事がもしかしたらあるのではないかと思うのですが、感じたことは何かありましたでしょうか。
- 事務局： 応募はいつも定員をオーバーするぐらいあるのですが、応募してくるのはもともと図書館が好きな子が多く、なかなか新しい利用者に繋がってはいないのかなと思います。実際の体験では、カウンターの仕事や、自分たちが子供におはなしをするおはなし会などがあり、「プレミアム」という2回目の参加の子どもたちのためのコースでは、本にカバーをつけるという体験をしたりして、かなり身近に感じていただいております。ご意見いただきましたように、来年から子供目線のできるものを考えたいと思います。
もう一つつけ加えますと、そういった子供たちが自分のおすすめの本のポップを作って児童室に貼り出す、というようなことをやっているの、子供から子供に伝わればいいなと考えております。
- 委員： 最後の何かを作ってというところをもう一度お願いします。
- 事務局： 子供たちが、自分が気に入っている本やおすすめしたい本のポップと言うのでしょうか、書店とかでこの本をこういう理由でおすすめしますとか、この本をぜひ読んでくださいみたいなものを書いて図書館に掲示して、そんなところから繋がればいいかなと思います。
- 委員： せっかく子供さんが集まっていたので、そういうときに何かのヒントが潜んでいる場合もあるかと思うので、また今後も引き続き続けていただきたいと思います。
- 委員： 沼津市の図書館も千代田区の図書館も予約のランキングはほとんど同じで、100件くらい予約があるものだと今から予約を入れても4年くらい待たないと自分のところに回ってこないなということがあるので、結果的には多分1冊じゃないと思いますので、副本をされていると思うのですが、あまり副本を多くすると書店を圧迫するような形でいろいろ問題もあるかと思うのですが、その辺の兼ね合いはどのような感じでやられていますか。待ち受けが多いものの副本を増やせば、トータル的には満足度が上がるのかなと思います。

事務局： 委員のおっしゃる通り、人気のある本の副本については数を揃えるようにしております。ただ闇雲に揃えるという事になってしまいますと、おっしゃる通り本屋さんの経営を圧迫するということもあります。

ですので、予約数が多いものにつきましては10の予約に対して1冊の割合で副本として揃えるようにいたしております。

(2) 図書館利用者アンケート結果について

事務局から配付資料に基づき説明

委員： アンケートの結果で図書館の満足度について、「やや満足」と「満足」を足して合計で95.9%という回答が得られているのは、非常に驚異的な数字だと思います。

なおかつその中でも5番の「職員の対応」というのがトップで94.5%の方が満足されているということです。普通民間企業でも、これだけの数字を打ち出すことはまずあまり考えられない驚異的な数字だと思いますので本当に素晴らしいというのが実感でございます。

小学生や低学年の人に図書館に来てもらうための何か施策としては、ポイントカードを作って、来館したら日付とはんこを押して、はんこが5つ溜まったらくじを引けるというようにして、ポケモンカードや図書カードが当たるとか、図書カードの500円のものよりもポケモンカードの方が、お子さんが喜ぶと思います。そういったものを景品として出しているものかどうかはわからないのですが、そういった来館することによって、何か楽しみが増えるみたいなものも入れられたらどうかと思います。そうすると小さい子供は、よく、図書館に行こうよという形で足を運ぶのではないかなと思いました。

事務局： 参考にさせていただきます。現在は「おはなし会」でそういったポイントカードを配布しております。来館したときに、職員が作った魚や昆虫の消しゴムはんこを押して、それが貯まると職員が作ったしおりなどを景品としてお渡ししております。

委員： 来館者の年齢分布で、60代70代で半分を超えているのですよね。これにびっくりしたのですが、逆に20歳未満が5.4%しかいないということです。やはり子供にとっての魅力を作るといことも大事かなと思いますので、またご意見も参考にしているいろいろ考えていただけたらと思います。

それから滞在時間が「30分未満」「30分から1時間」でほとんど90%、来館目的が「本を借りる」が圧倒的に多い。それと来館手段が「自家用車」が64.3%、3分の2あるということもあります。これらを併せて考えると、やはり無料が30分というのが効いているのかなと。車で来て、無料時間内に用を足して帰ろうとすると、簡単に探して借りて帰ると、あるいは返して帰るとい形になってしまって、図書館の中に滞在してゆっくり本を探して読んでいこうとか、調べ物をしようというところが、この駐車料金が影響しているのではないかなと思います。

これからの図書館のあり方を考えるとき、借りに来て返すだけではなかなか難しいかなと思うので、そういう点についても考えていただけたらいいかなと思います。

委員： 電子図書館についてですが、実際に自分で使ってみました。電子図書館と普通の本はホームページでの予約が別々ですね。それで電子図書館は返すのは自動的に消えてしまうので、返す心配はもろくないのですが、予約した時に本の場合はメールで連絡が来ますが、電子図書館は、自分が電子図書館の中に行かないと予約した本が借りられるようになっているのかがわからない。結局貸出ができるようになった事に気付かずにそのまま終わってしまったのが結構あって、それ自身は自分自身が調べればいいのですが、それをどこに問い合わせをしたらいいのか、本の貸出をしているカウンターの人たちに聞けばいいのかもしれないのですが、何か別なのかなというのがあって、できたら電子図書館の使い方講座を年に1回とかではなくて、こまめにあるとありがたいなと思います。

それと駐車場の30分無料というのが、お子さんがいる場合1時間になったと思いますが、その状況はどんな感じでしょうか。

事務局： まず電子図書館ですが、委員がおっしゃられたとおり、前の方の貸出が終了すると自動的に次の予約者の貸出となる状態ですので、今のシステムですと自分で見に行ってください。形になってしまいます。

それから使い方の講座ですが、なかなか考えてはいるのですが実現をしていないところでして、今は初めて使う方向けの動画を作りまして、それを電子図書館の中に載せております。

今後これからの予算要求に関わってくるのですが、タブレット端末等を用意して、講座等できればいいなと考えており、前向きに検討していきたいと思っております。

駐車場の小学生以下の子どもを連れてきた方の減免制度の利用状況ですが、今年度から始めまして、お子さんと一緒に来られた方には、システムで年齢を確認して、利用者カードに60分減免となる期間がわかるようシールを貼らせていただいております。お声かけさせていただいている中で、徐々に利用が増えてきておりまして、4月当初は大体1日あたり10人から20人ぐらいだった利用が、今夏休みになりまして、50人前後利用されている状況になっております。また周知をしながら利用状況の方を把握していきたいと思っております。

委員： アンケートの有効回答数が1099件となっていますが、調査期間が少ないように感じました。週末がそんなに入っていないので、週末はもう少し親子がいると思うので、子供向けサービスの満足度とか、そういったところにも響いてくるのかなと感じました。

私も子供が小さい頃はほとんど週末にしか行ってなかったもので、もう少し週末期間を挟んで、1ヶ月ぐらい調査期間を設けて、週末の利用者を含めていただきたいと思いました。

事務局： ご意見ありがとうございます。ご意見を参考に検討して期間の決定をしたいと思います。

委員： 利用の年齢区分が、50代60代70代が非常に多いということですが、昔からこういう傾向だったのでしょうか。だんだん若い人が減ってきているというようなことがあるのか。

事務局： このアンケートを取り始めたのが、実は令和3年度からになりまして、3年間実施してきた中では比較的この結果に近い状況が続いているような形です。若い学生さんなどは学習

室に直接来られて、そのまま帰る方がいらっしゃるのので、その方たちにもアンケートに答えてもらえるともう少し若い人の比率も増えるのではと思います。

委員： 学習室に直接行ってしまふ若い人たちがアンケートに気付かないで帰ってしまうと、本当の利用者の状況を表す結果にならないので、また次にやられる時には学習室に来られた方にもアンケートに答えていただけるような配置で考えていただけたらと思います。

それと電子書籍の関係で、電子図書館の貸出冊数が減っているのが民間との競争を理由として挙げられていましたが、具体的に民間と比べてどういうところが負けているというか、利用しにくいのか、どういうところを改善していけば良いのか、もしわかりましたら教えていただきたい。

事務局： やはり品揃えというか、民間サービスの方が新しい本をどんどん入れられる、また種類も幅広く入れられる、というところがございます。また電子書籍が紙の書籍に比べて値段が高いということと、人気のある本になりますと2年縛りですとか回数縛りといった購入の仕方になってしまいます。こちらでも人気のあるシリーズですとか、気に入っていただけるような書籍を揃えているつもりではいますが、やはり民間の有料サービスと比べると見劣りがしてしまうのかなと思っております。

委員： 公共がやっていることですから、民間のように必ずしも人気を追う必要はないと思いますが、そういった点も考えていただいて努力していただけたらありがたいと思います。

委員： 学習室についてですが、本日も高校生たちがすごくたくさん使われていて、小学生や中学生が、高校生の中で勉強がしづらいという話を今日していて、そういう子たちがすごくしやすい学習室があると嬉しいかなと思いました。

事務局： ご意見としていただきます。児童室や1階の一般の方でも図書館の本を使いながらの勉強は可能となっておりますので、もし自由研究等で図書館の本を使われる場合は、そちらでご利用いただければと思います。

(3) 令和6年度事業計画について

事務局から配付資料に基づき説明

(4) その他

事務局から配付資料に基づき説明

8 閉会